



# 大 南

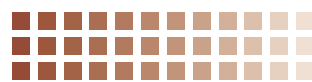
## Contents

館長エッセイ 村松 茂美	1
特集:学びを広げる!視聴覚資料	2~4
news news	5~6
informations	5~6
図書館の現状—入館・貸出統計から見る学生の動向— 津村 秀夫	7
staff column 上田 信行	8
図書館日誌	8



村松 茂美  
Muramatsu Shigemi

## 夏のテレビ番組から



「館長エッセイ」も4回目ともなると完全に種はつきてしまいました。もともとエッセイストではなく、その才能もなく、このような仕事をしている私としては、論文や書評などであれば、なんとか「誤魔化す」ことも可能なのですが……。そもそもエッセイとは何だろうか。素人ながらに考えると、日常みなれた光景に一筋の光あるいは輝きをあたえるような文章なのかな、などと悪戦苦闘しつつ考えているところです。かりにエッセイなるものがそんなものであるとしても、私には書けません。

今回の「大楠」の特集テーマが『学びを広げる！視聴覚資料』ということなので、何か素材になるものはないかと、図書館のAVコーナーをながめてみました。文学作品的なものがわずかにならぶだけで、圧倒的に娯楽作品が目につくことに少々がっかりしました。もう少し、楽しみながら、社会や歴史などへの関心を広げるようなものはないのだろうか。検討の余地があるように思われます。

それはともかく、「館長エッセイ」の素材をさがしていると、ふと今年の夏のテレビ番組を思い出しました。今年の夏は、衆議院選挙にむけて、テレビ番組もその種のものが多かったのですが、他方で、夏に「恒例」の戦争関連番組も放送されていました。そのなかで、記憶に残ったのがNHKで8月9日から11日まで三回にわたって放送された「日本海軍 400時間の証言」でした。それは、旧日本海軍「軍令部」のメンバーが、昭和55年から11年間ひそかにあつまった会合（「海軍反省会」）での発言の録音テープをもとにした番組でした。この軍令部というのは、海軍省が内閣に從属するのに対し、天皇に直屬し、

海軍全体の作戦・指揮を統括するものでした。そのかつてのメンバーたちが自分たちの立案した作戦や指揮について回顧・反省の発言をおこなっているのです。その発言からうかがいあがってくることは、かれら元メンバーたちが、軍令部において、戦争は避けるべきだと考えながら、組織に生きる人間として「戦争回避」とは言えなくなっていく状況でした。そして兵士の生命を無視する「特攻」作戦などというものは、「あつてはならない作戦」と認識しながらも、その計画を推進していくことになる姿でした。番組の司会者が、軍令部におけるメンバーたちが「おかしい」と思いながら、その疑問を軍令部会議において提起しなかったことを「恥ずべき沈黙」と批判したことは記憶に残ります。

そんな状況は、民主主義の現在、当然かわったものと思いたいのですが、どうなのでしょう。円滑に進行していく会議において、問題を見出しながら、全体の雰囲気におされて発言することを控えたり、あるいは逆に、勇気をだして発言する者にひややかな態度をとったり……。そしてこのような態度を正当化する「論理」は容易につくりあげることができるというわけです。最近はやりの「空気を読む」という言葉も「普遍的真理」ではないのかもしれませんが、そんなことを考えさせてくれる番組でした。



むらまつ しげみ

経済学部教授。2008年1月より図書館長。  
【専門分野】 イギリス社会思想史

## 学びを広げる! 視聴覚資料



図書館のAVコーナーを利用していますか？

今回は改めてAVコーナーの使い方とお薦めの視聴覚資料をご紹介します。

### AVコーナーは宝の山!

商学部 准教授 小城 義也



英語教師の私はこの常連客です。English journal, CNN English Express (LL・視聴覚準備室所蔵)などの月刊誌、オーディオブックやDVD、CDなどは教材として重宝しています。個人的には、『ハリー・ポッター』や『ロード・オブ・ザ・リングズ』などを名俳優が朗読したものを聴きながら原書を読みました。『源氏物語』などの日本文学作品も同じ方法で楽しめます。現在担当している『英文学講読』の授業では、シェイクスピアの劇の名場面を原文で音読したあと、その場面をDVDで視聴し、劇の雰囲気を味わってもらっています。また、複雑な英国史劇の理解には『サ

イモン・シャーマの英国史』というDVDが役立ちました。音楽については、ポップスをリスニングの授業で使い、クラシック音楽は個人的に楽しんできて、棚のCDはほとんど全部聴きました。定評のあるCDアルバムやDVDなどを補充して、AVコーナーがさらに進化することを期待しています。



英語朗読CDは貸出できます。

### “おもいで”との再会

「グレッグ・アーウィンの英語で歌う、日本の童謡」

大学院 社会福祉学研究所 青木 旬子



入学前から本学の図書館は充実している!と情報を得ていた。「らいぶらりニュース」を見てAVコーナーに足を運んだ所、標記の本に出会った。CD付きのこの本は、日本語歌詞の横にアメリカ人ソングライターであるアーウィンさんの英訳詩が並ぶ。「あめふり」の“ピッチピッチチャップチャップランラン”は、“Splishy, splishy, splashy, splashy, Happy am I!”と表現されている。日本の童謡を英語で歌う事に新鮮な驚きがあった。ミュージカル出身の兩宮さんの柔らかく透き通るような歌声と、英語でアーウィンさんの歌。浜辺の歌、ゆりかごの歌など、一つ一つに思い出が重なる。聞いていると日頃の疲れや悩みが洗い流され、リフレッシュできる。歌ができた背景、作詞家、作曲家のライフヒストリーも紹介され、英訳表現方法以外に、幾つもの事に開眼させられた。



語学資料は貸出できます。

### 空き時間を利用しよう。

国際経済学科 4年 川口 真理子



AVコーナーには様々な語学資料やDVDが備えています。特にDVDは空いた時間に視聴するのにぴったりです。しかし、映画DVDでは、授業の合間の90分間では見終われません。そんな時に私は、学習系のDVDを視聴しています。例えば、『プロジェクトX』や『プロフェッショナル』、『ガイアの夜明け』など、NHKで放送されているシリーズです。これらの資料は、一時間程で終わるためちょうどよく、新たな知識を増やすことにも繋がり、また自分の将来について考えるきっかけを与えてくれます。その他にも歴史物やスポーツなど豊富に揃っているので、自分の興味のある物から見始め、それから少しずつ視野を広げてみてはどうでしょうか。映画DVDで娯楽を楽しむのも良いですが、たまには自分を向上させるようなこういった類のDVDを視聴してみるのも一つの利用方法だと思います。



DVDはAVブースでのみ視聴できます。

◆ **特集** ◆ **学びを広げる! 視聴覚資料**

視聴覚資料は、映画だけではなくありません! みなさんの学習意欲にAVコーナーが応えます。

**英語力・英会話力のスキルアップをめざす**

『多聴多読マガジン』(語学資料雑誌)

「たくさん聞いて」「たくさん読んで」



とにかく英語に多く触れようという語学学習の王道にそった方法、誰でも挫折をせずに継続できる方法、理にかなったより効果の出やすい方法を紹介する雑誌です。  
自分が快適に読めるレベルを知ることからはじめましょう。  
※レベル別おすすめ洋書の朗読CD付き

『スクリーンプレイ』

役者になりきってセリフをどんどん覚えていこう!!



名作映画完全セリフ集『スクリーンプレイ』は、映画のセリフとシーンの説明を完全に英語および日本語で文字化したもので、映画を楽しみながら、英会話学習にも利用できる語学学習シリーズです。自分の好きな映画で楽しく学べて、より実践的な英語を、場面や状況を観ながら印象的に覚えられます。少しずつセリフを蓄積していけば、いつかきっと自然にしゃべれるようになるはずですよ。

『English journal』(語学資料雑誌)



生きた英語に出会い、自分の世界をぐんと広げよう

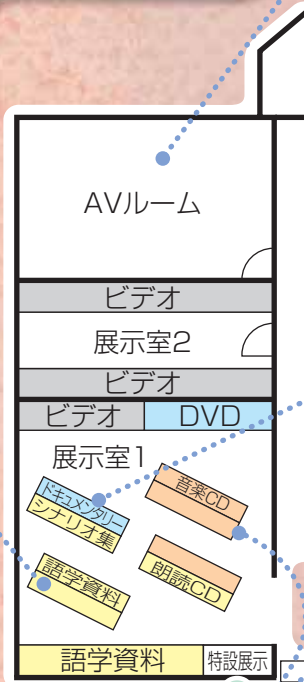
世界の著名人の生のインタビューやBBC Newsをはじめ、あなたの学習意欲を高める興味深い内容の学習素材を取り上げています。

※語学資料は、「TOEIC」「TOEFL」など各種試験対策の本も豊富に揃っています。また英語のほか、中国語、韓国語、スペイン語を始めとした世界各国の言語の語学資料があります。  
※語学資料は貸出できます。AVカウンターで手続きをお取りください。

**リラックスしたい**

- クラシック
- JAZZ
- ヒーリング
- ポップス 邦楽・洋楽
- 映画 サウンドトラック

音楽CDは各種揃っています。ヒーリング音楽で、心をなごませ、くつろぎの時間を過ごしたり、音楽を聴きながら本を読んだり。リラックスする空間として利用できます。



**特設展示**

ここでは新着資料を展示しています。またスタッフおすすめの映像資料リストも置いています。何を観るか迷った時は、キーワード別、国別、ジャンル別のリストを参考にしてみよう。



仲間と学びあう

授業で! サークル活動で!

AVルーム

授業やサークル活動など多人数で映像資料を観るときに使われています。グループで映画や音楽を視聴しながら、勉強会をするのに利用できます。予約制ですので、AVカウンターに申し込んでください。(30席)

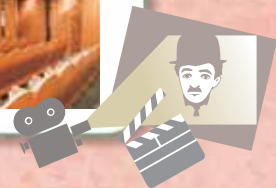


個室

3人~5人で利用できます。個室内でも飲食・携帯電話の使用は厳禁です。

地階AVホール

授業で映像資料を利用するときや、研究発表会、スピーチ、留学の報告会の場として利用されます。図書館シネマ(映画上映会)もここでを行っています。(110席)



カウンターで手続きを済ませたら、鍵とヘッドホンをもって各ブースへGO!



視野を広げたい

世界の現実をとらえ、新しい視点で社会を見つめてみよう

『PARC video シリーズ』(ドキュメンタリー)

「PARC」とは、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできるオルタナティブな(今のようでない、もうひとつの)社会をつくることをめざしている、特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センターのことで、このビデオシリーズでは、アジアの市民団体や研究者とのネットワークを活かして、エビやバナナ、水や100円ショップ、バイオ燃料など私たちの身近な題材を切り口に、世界各地の人々の姿をドキュメンタリーを通して紹介しています。



ケーブルテレビ

空き時間を利用して… たまには冒険してみてもいい?



ケーブルテレビでは、50以上もの番組を視聴できます。NHK衛星(BS)、WOWWOWはもちろん、ニュースからドラマ、音楽、スポーツまで一気に楽しめます。世界175カ国、35言語で配信されている世界最大のドキュメンタリー専門チャンネル「ディスカバリーチャンネル」はお薦めです。詳しい放送内容は、「チャンネルガイド」やまたインターネット上でもチェックできます。

AVカウンター

各ブースの利用、語学資料の貸出は、こちらのカウンターで手続きが必要です。このほか、新聞や雑誌についてのお尋ねも受付けています。

AVコーナーの利用上の注意

- AVコーナーでは持ち込みの資料の視聴は受付けていません。
- AVコーナーも図書館の中です。マナーとルールを守りましょう。
- AVカウンターで借りた本は、図書館を出る際その都度1階カウンターのスタッフにゲートの外に出してもらってください。
- 展示室1、2にある資料はOPACで検索できます。映画DVDはタイトル順に並べていますので、原題のままか、邦題で入っているかで場所が違います。

## オープンキャンパス2009



今年も7月から10月にかけての3回、「オープンキャンパス」が行われました。図書館では、学内の施設見学の一環として「ライブラリー探検」を行い、たくさんの高校生や保護者が訪れました。見学者の皆さんは友達と相談しながら館内の各フロアを散策したり、本棚の本を手にとったりと思

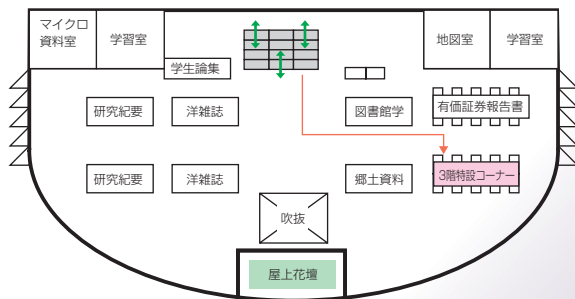
いに時間を過ごしていました。

特に、視聴覚コーナーは多くの見学者が訪れ、資料棚でお気に入りのCDやDVDを見つけて視聴していました。また、新聞縮刷版コーナーでは、自分の誕生日の出来事を友達や保護者と眺め、語り合う光景も見かけられました。今回は、大学紹介ビデオと学生自主制作ビデオを館内施設で上映する試みがなされましたが、教室棟で行われた学部・学科紹介の後、改めて視聴する高校生・保護者の姿も見受けられました。

## 3階特設コーナー設置

10月より、3階フロアの西側に特設コーナーを新たに設け、これまで地下書庫にあった「教職研修総合特集シリーズ」の図書とデータ未入力の「紀要」の全てを並べています。教職研修総合特集シリーズは教員を目指して勉強している方、教育現場に興味のある方などに役に立つ資料です。

また、紀要につきましても図書館所蔵の紀要は全てOPACにて検索可能になりました。探し方など不明な点は、カウンタースタッフにお尋ねください。



## ナイストライ受入れ

今年は9月8日から10日の3日間、熊本市帯山中学校の「ナイストライ」事業推進の依頼を受け、同校の2年生10名が本学図書館で職場体験実習を行いました。皆、小・中学校で図書委員の経験があり、毎日とても手際よく仕事をしていました。

10月24日、同中学校の生徒達から“プランター花壇”2鉢の寄贈を受けました。図書館の玄関わきにあるプランターでは、まだ小さな苗が、小春日和の中ですくすくと葉を広げています。



## Informations

### CSR 報告書展示中

「CSR」をご存知ですか? 「CSR=Corporate Social Responsibility」は“企業の社会的責任”と訳されます。詳しくは「収益を上げ配当を維持し、法令を遵守するだけでなく、人権に配慮した適正な雇用・労働条件、消費者への適切な対応、環境問題への配慮、地域社会への貢献など企業が市民として果たすべき責任」をいいます。(「ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)」より)

「CSR報告書・レポート」は、各企業が自社のCSRへの取組みの内容、活動を公表する目的で作成する報告

書のことです。義務付けられているものではありませんが、作成する企業は年々増加しています。特に環境報告書に社会性を盛り込むケースが増えているようです。

本学図書館では2007年からCSR報告書の収集、展示を始めました。図書館2階レファレンスカウンター付近にすべて展示していますので、興味のある方はぜひ一度手にとってみてください。



## 図書館実習

毎年恒例の図書館実習が10月17日から23日までの一週間で今年も行われました。この実習は司書および司書教諭資格の取得を目指す本学学生の実習受入・指導を行うものです。本学では第一部の全学科で課程が設けられており、実習は「図書館特論」として4年次での選択科目となっています。この実習は講義・演習で学んできた理論を実際に現場で実践することにより、具体的な技術の習得を図ることを目的とするものです。

今年は2名の学生が実習に取り組みました。期間中は館内の各係を一巡し、総合的な判断ができるように実

習の内容が組まれています。実習生は業務の流れにそって図書・雑誌の受入から目録業務、閲覧業務、雑誌・視聴覚資料の利用提供やレファレンス業務など、毎日さまざまな仕事を手がけ、司書という仕事に理解を深めながら、毎日張り切った表情でそれぞれの課題に取り組んでいました。



### ● 実習を通して学んだこと ●

リーガルエコノミクス学科4年 山下 力也

今回の図書館実習はとても充実したものであったと感じています。今まで司書資格取得のために授業などを受けて勉強はしていましたが、実際に実習を通して業務に当たってみると、図書の受入や目録係の仕事など細かい作業や、図書を決まった場所に並べる配架の作業など予想以上に根気のいる作業で、図書館員の大変さなども学ぶことができました。

これからも卒論の作成など学習する中で、また社会に出てからも図書館は活用していくので、今回の実習は多くのことを学ぶことができ、とても実りのある実習であったと思います。



英米学科4年 古閑 千晶

私は今回の実習の中で、図書館は日本中の人々と繋がっていることを知りました。レファレンス業務では、毎日他大学図書館との本や文献複写のやりとりが行なわれていました。目の前にいる利用者だけでなく、遠く離れた利用者のためにも働く図書館員の仕事の幅広さに感銘を受けました。

どんな情報も手に入る現代ですが、やはり人の力がなければすべて対応できません。そこを補い、正確な情報を提供する仕事に魅力とやりがいを感じたと同時に、その他にも多くの事を現場で学ぶ貴重な経験が得られたことに感謝したいと思います。

## Informations

### 🔴 日本文学の「復刻版」

図書館入り口に設けてあるショーケースをながめてみたことはありますか？ここでは、世界でも高く評価されている日本文学の名著の「復刻版」を常時展示しています。これら復刻版は、一冊一冊丁寧に造られており、特に装丁のデザインはおしゃれで、その斬新さには驚かされます。当時の本の装丁、書体、挿絵など現代の本とは違った魅力を感じることができます。

現在、日本近代文学館刊「精選 名著復刻全集 近代文学館」の中から30点ほどを選んで展示しています。興味を持ってもらえるよう作品のあらすじや作品の生

まれた背景など解説を添えて展示していますので、興味のある方は、ぶらりと見学してみてください。

(展示物の入れ替えは、三ヶ月周期で行っています。今後半年間は1981年に創刊された児童雑誌「赤い鳥」の復刻版や、イギリスの伝承童謡であるマザーグースの名著復刻版を展示する予定です。)



## 入館・貸出統計から見る学生の動向

### はじめに

図書館利用の指標としての入館者数と貸出冊数はその基本です。この『大楠』でも春季号で毎年発表しています。今回は学生を対象に、“学生1人あたり”という指標も採用してレポートします。ちなみに当館は、朝日新聞社の「大学図書館ランキング」で学生1人当たりの数値が63位にランク(九州の私大ではトップ)されています。(1)

### 入館者数・貸出冊数

平成7年の新館オープン当時40万人の入館者と9万冊の貸出を記録(2)して以来、その数は盛り返しの年度はありつつも緩やかに減少傾向にあります。昨年度の詳細は【表1】となります。今年度の上半期も前年度の同期と同様か若干下回る数字となっています。

【表1】 学生の利用状況 平成20年度(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

学生数	7,018人	平成20年5月1日現在の学生在籍者数
学生入館者数	262,039人	315,758人(学生、院生、教職員、科目等履修生、学外者など全入館者数)
学生貸出冊数	42,044冊	60,942冊(学生、院生、教職員、科目等履修生、学外者など全貸出冊数)
学生1人当たりの貸出冊数	6冊	
開館日数	318日	平日230日、土曜45日、日曜43日

学生1人当たりの貸出冊数6冊というのは、全国の私大平均7冊より1冊低い数字です。1冊といってもその平均を上げるには7,000冊を貸出すこととなります。なんとか全国平均まで回復したいものです。学部別にも概観しますと課題図書等があるところは貸出が伸びており、授業との関連が大きいようです。「英園コーナー」のリーディングブックは、なんと外国語学部の年間貸出数11,500冊の50%にあたる5,600冊を貸出しています。また貸出まで至らず館内閲覧で済まされている図書の把握も難しいものです。(こまめに返却台を見て回ってはいますが…)

入館者数は平日の開館日数を基にすれば学生で1日平均1,200人となります。しかしすべて延べ数であり貸出、入館者とも何人が利用しているのか、逆に言えば図書館を利用していない人の数はわかりません。この数こそ解明されたいものです。

いま図書館にはパソコン利用というもう一つの潮流があります。実は日々図書と同数のパソコンを貸出(利用)しています。44台の学習用パソコンが定期試験時など10回転しています。カウンターの業務は倍になりました。大学図書館界で話題の「ラーニング・commons」(3)も、パソコンを配置したスタディールームやグループ学習室という場で、それと似つかわしいものを早い時期から提供しているとも言えます。

### おわりに

これからは閲覧・貸出に加えて、情報リテラシー教育、学習支援の場が求められています。名称の新旧はともかく従来から図書館が取組んできたことです。学生にアピールできるよう見えるカタチにしたいものです。

- (1) 奉仕対象学生1人当たりの蔵書冊数、受入図書冊数、貸出数(学生)、図書館費について、それぞれを指数化し、総合ランキングとしたもの。2007年調査の643校分を集計。  
週刊朝日編『大学ランキング2009』朝日新聞社、2008
- (2) 学生のみではなく、全体の数字。
- (3) 「移動可能なパーティションなどによるフレキシブルな空間。グループ学習室、グループ・ワークステーション、プレゼンテーション室などの共同作業向きの場所。カフェやラウンジなどの社交的な施設を備えることが求められる。」～米澤誠「インフォメーション・commonsからラーニング・commonsへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援」『カレントアウェアネス』No.289(2006年9月20日)

(奉仕課長 津村 秀夫)







*Kumamoto Gakuen University Library bulletin*

**大楠** 第45号 2009年11月30日

編集・発行／熊本学園大学付属図書館 〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号 TEL(096)364-5161 FAX(096)362-5967 <http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>

